

日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだいに

発行所／福岡市中央区天神二丁目西日本新聞会館十四階

集団力学研究所内・日本グループ・ダイナミックス学会

発行人／三隅二不二・編集担当／黒川正流

1993年3月20日
第1号

学会功労者に感謝状を贈呈

牛島・故平塚・三角の各氏

四十回記念大会 盛会裡に尾張をつげる

日本グループ・ダイナミックス学会第
四十回大会（原岡一馬大会委員長）は、
去る平成四年十月四、五の両日名古屋大
学教養部校舎を主会場に二百三十八名の
会員が参加して開催され、盛会裡に幕を
閉じた。今回は特別講演一、シンポジウ
ム一、ワークショップ三、個人発表ロン
グ六、同ショート六十一、パネル二十
（うち取り消し二）の他に、四十回を記
念して理事会企画三件が行われた。

理事会企画の一つ「学会功労者感謝状
贈呈」では、故平塚益徳九大名誉教授ご
遺族、牛島義友名誉会員、および三角恵
美子の三氏に、本学会への多大の功績を
たたえて感謝状が贈られた。

平塚益徳氏（一九〇七—一九八〇）は
昭和二十五年に九州大学教育学部で発足
した本学会の初代会長を務められ、昭和
三十五年に至るまで創世期の学会基盤の
確立に多大の尽力をされた。

牛島義友氏は昭和三十五年から会長に
就任され、同四十九年まで学会の名実と
もなう充実に尽力された。同氏は機関誌
刊行の必要性を強く提唱され、「実験社
会心理学研究」の前身である「教育・社
会心理学研究」が誕生した。

三角恵美子氏は昭和三十年代から学会

事務運営に多大の功労を果してこられた。
九州大学での研究事務の傍ら学会事務局
の実務に携わり、以来集団力学研究所で
活躍されている今日に至るまで本学会の
養育者の役を果しておられる。

第五回研究奨励賞は吉原智恵子氏へ！

平成四年度グループ・ダイナミックス
学会研究奨励賞（第五回）には、学院
大学人文科学研究科・吉原智恵子氏の
「不斉合な情報の処理様式の研究—対人
情報を材料として—」（実社心研三一巻
39—48頁）が選ばれ、さる十月四日の四
十回大会総会において表彰式が行われた。
この賞は三十五歳以下の著者による機関
誌掲載論文のなかから優れたものに与え
られ、論文は機関誌英文号に再録される。
研究奨励賞選考委員会の中村陽吉委員
長はつぎのような所感を述べられた。

『実験社会心理学研究に掲載された研
究論文は近年とみに質が向上し、候補研
究はいずれ劣らぬ力作であったので、選
考委員会も嬉しい苦しみを味わった。委
員会では各委員がそれぞれの論文につい
て率直な意見を述べ、充実した討議の末
に該当論文が一編に絞られていった。
学会の大会では参加者も多く、かつ本

人が面前にいての討議なので、遠慮がち
であるが、今回の委員会ではこのような
抑制なしに公平な検討ができたと思っ
ている。大会と委員会との討議の充実度の
違いから、集団活動の効率について考え
させられた。』

また、表彰された吉原さんの受賞の弁
はつぎの通り。

『この度は若手研究者奨励賞を賜りあ
りがとうございました。思ってもみな
かった授賞でたいへん驚いています。生
まれて初めて賞状というものをいただき
ました。振り返ってみますと、一つの論
文を書くにあたり何と多くの方のご尽力
を賜ったことかと、その大きさを再認識
しています。ご指導をいただいた諸先生
方をはじめ多くのご助言をくださった諸
先輩後輩方、労力のかかる実験にご協力
をいただいた数多くの被験者の方々等、
本当に多くの方を巻き込み、多くを与え
てくださり、感謝の念に耐えません。次
のステップへの励みとして一層の努力を
していききたいと思います。』

四十一回大会は十月のひのくに熊本で
平成五年度の日本グループ・ダイナ
ミックス学会大会は、十月十六、十七の
両日、熊本大学教育学部で行われること
が決定した。大会委員長は鈴木康平教授。
同大会についての準備委員長からのご
案内を二面に掲載します。

改選により新理事決まる

平成四年九月の役員改選により、つぎ
の方々が当選した。任期は四年十月六日
から平成六年の大会終了日までの約二年。
（敬称略）◎会長、●副会長、○常任理
事、△監査）大坊郁夫・鮑戸弘・安藤清
志・古畑和孝・橋本仁司・永田良昭・田
中村陽吉・末永俊郎・原岡一馬・長田
雅喜・廣田君美・木下富雄・白樫三四
郎・杉万俊夫・黒川正流・吉森護・○
安藤延男・●狩野素朗・◎三隅二不二・
○鈴木康平・△関文恭・△篠原しのぶ

第四十一回大会の御案内

大会準備委員長 鈴木康平

暦の上ではすでに春、しかし寒暖の差の激しい日々が続くこの頃ですが、会員の皆様にはお変わり無く、お元気に研究・教育に御精励のことと拝察いたします。さて、昨年は御承知のように本学会創設四十周年の記念大会が名古屋大学で盛大に催されました。それをひとつの大きな節目として、今年は次へ五十年、百年を目指す新たな第一歩の年と認識いたします。奇しくも今年の干支は酉、新しい羽ばたきにふさわしい年となりました。この様な意味でもこゝ熊本の地で本学会第四十一回大会の開催を担当させて頂き、私ども準備委員一同今年度の大会が本学会の飛翔の為の新たな踏み切り台となることを期待して、その準備にいそしんでいるところでございます。

開催時期は、十月十六日(土)十七日(日)で、前日の十五日に理事会などを予定しています。

準備委員会は鈴木康平、佐藤静一、篠原弘章、吉田道雄の4名をもつて構成しています。責任者は鈴木ですが不慣れで皆様方に御迷惑をおかけすることもあるかと案じています。どうぞ御遠慮なされないで不備などを御指摘戴ければ幸いです。

なお、第1号通信は今のところ3月のうちに発送を予定しています。会員各位におかれましてはどうか積極的に御参加くださいますよう、心からお待ち申し上げます。

連絡先：熊本大学教育学部心理学研究室
室内 日本グループ・ダイナミックス学会第四十一回大会開催準備委員会

住所 熊本市黒髪二一四〇一（郵便番号 860）電話 096-13441211（内線 2639）（心理学科図書室）

グループ・ダイナミックス学会、第四十回大会おめでとうございます。また、思いがけず私にまで賞をいただき、有難うございました。しかし、人生の師として尊敬し仰ぐ、牛島義友先生と同じ席で賞をいただくことに身がすくみ、当日は出席することができませんでした。牛島先生が九州大学教授で、グループ・ダイナミックス学会の会長であられた頃から現在に至るまで、先生の存在は私にとって、太陽のように大きく暖かく偉大でした。

その牛島先生が学会のあり方について「機関誌は学会にとって一番大切である。必ず出版すべきもの」「学会員は若い人が多い。経費はできるだけ節約して、会費は安く」「会費を滞納しても機関誌は送る。お金ができれば、必ず会費を納めてくれる」「お金は何とかなるものだ」と、下っ端の私に、話してくださいまし。

その伝統は、次の会長である三隅先生に受け継がれたと思います。機関誌の出版に関しては、九州大学集団力学講座の助手・大学院生の奉仕にも似た努力によって、英文号を含む三冊を刊行できるまでになりました。

「お金は何とかなる」の方は、なかなか何とかなりませんでした。

当時は会員数も少なく、学会運営に際してお金の問題は、常任理事の先生方にとつて、重い課題だったと思います。今は時効になったと思いますが「過年度会費収入」という名目で数十人分の会費相当額を、三隅先生の財布からいただいたことも一度や二度ではありませんでした。また、機関誌印刷を引き受けてくれた福岡印刷へ支払いは、分割が当然で、その領収書が二十数枚等はめづらしくなく、「一万円で済みましたので、集金に来て

下さい」と連絡をすると、今にも壊れそうなボロボロバイクに乗って、嫌な顔一つせず集金にきてくださった、福岡印刷の田中さんのことが、懐かしく思いだされます。

グループ・ダイナミックス学会の機関誌は、九州大学心理学研究室で十巻まで刊行されていた「教育社会心理学研究」を継承して「実験社会心理学研究」と改題し十一巻から刊行されました。学会の機関誌として継続発行していくという挨拶状が効をそうしたのか「教育社会心理学研究を購入したい」という大学からの依頼が多く寄せられましたが、残念ながら「教育社会心理学研究」残部は少なく、その要望に応えることができません。そして、その要望に応え「教育社会心理

「お金は何とかなる」はなかなか……

グル・ダイ学会とともに歩んで

感謝状に感謝して

(財)集団力学研究所 三角 恵美子

学研究」の復刻版を作るという決定が常任理事会でなされました。しかし、復刻版作成のための見積書をとって驚きました。当時の学会にとつては天文学的数字でした。そこで外部に発注をやめて、内部で印刷することになりました。原紙と用紙、インク等の消耗品を購入、表紙印刷と製本を専門家に依頼、赤字がでたら、常任理事が責任を持つということ、この作業はスタートしました。数百枚の原紙作成は関(現・九州大学教授)、吉田(日本文理大学教授)、橋口(福岡県立大学教授)さん達が分担して下さいました。八万枚に及ぶ印刷作業は勤務時間終了後と夏休み休暇・日曜日でした。ハングリー精神はエネルギーの源泉です。完成した復刻版は、商品価値があるのだ

ろうかと思われるような出来あがりでした。しかし、内容が評価されたのでしょう、予想をはるかに上回り、多くの大学や企業に購入していただき、その次の年度に初めて黒字決算を体験、その黒字分が学会の特別会計(基本積立金、出版基金)となりました。購入して下さった大学に感謝で、本当に躍り上がりたというの感激でした。その後も毎年分冊売上として数十万円の収入源になっていきますが、残念なことにも在庫がなくなりました。

また、機関誌は黒川さん(広島大学教授)の努力により、文部省の出版助成金と学術刊行物の指定を受けることにより、その評価はさらに高められたと思います。

私は、九州大学を退職し、数年間、学会とは無縁の存在になりました。しかし多くの経緯を経て、私の再就職先である(財)集団力学研究所で学会事務をお引受けすることが決まり、

研究所員一同でその任に当り、現在を迎えました。現在は牛島先生からの伝統を引き継いで、所員の崎さんが中心となつてがんばっています。

理事、常任理事の諸先生を始め、多くの方がこの学会に熱心にかかわられ、それが次々に伝えられていきました。そして、グループ・ダイナミックス学会は四十年の年月を重ねて、小さな手作りのイメージの学会から、組織的な動きをする本格的な学会になりました。大きな感謝を込めて、学会のさらなるご発展をお祈りいたします。

自著をよろしく！ 会員が出した本①

- 鮎戸 弘 著 「コミュニケーションの社会心理学」 筑摩書房 3,900円（昨年12月18日発売です。コミュニケーションに関する実験的研究、調査的研究、古典的研究、最新の研究と社会心理学的研究をすべて総覧したつもりです。社会心理学入門書兼ねます）。
- 天野 寛 著 「comic psychology a la carte JUN 〈青春のエチュード〉」 日本文化科学社 1,500円 〈著割〉（コミック、幼児体験、攻撃行動：マンガによる基礎的心理学の入門書。実社心研31巻3号英文号に掲載されたものも合わせてお読み下さい）。
- 安藤延男 他訳 A. W. Wicker 著 「生態学的心理学入門」 九州大学出版会 本年刊行予定 予価2,500～3,000円〈著割〉
- 池田謙一 著 （1993春出版）「社会のイメージの心理学：はくらのリアリティはどう形成されるか」サイエンス社 1,133円予（社会的現実、同調、俗信、ステレオタイプ、マスメディア：リアリティのメカニズムを認知社会心理学的に解明する試み）。
- 井原伸允・他12名共著「交流分析」 ビジネス教育出版社 1,500円 著割（TA手法を活用したよりよい接遇応待、TAで接遇をリフレッシュ、接遇のOKランド、いろんな窓口での接客態度の極意、よろしくおねがいたします）。
- 岡本浩一 著 「リスク心理学入門：ヒューマンエラーとリスクイメージ」 サイエンス社 1,854円
- *岡本浩一 「ユニークさの社会心理学」 川島書店 2,500円
- 押見輝男 著 「自分を見つめる自分——自己フォーカスの社会心理学」 サイエンス社 1,339円（自己への注意、私的・公的の自己論争、社会的促進、同調行動、没個性化）
- 小田哲久 他3名共著 「マネジメント情報とネットワーク」 中央経済社 3,600円（経営情報システム・情報ネットワーク・ハードウェアシステム・ソフトウェア・システム開発：ネットワークを中心として経営情報システムの基本的枠組を整理した）。
- *小田哲久 他著 「企業行動と経営工学」 中央経済社 4月発行予定 定価未定（企業行動、経営戦略、情報システム、人事情報、人間行動モデル：第9章「人間行動モデルの設計」（小田哲久担当）では、ファジィモデルに力を入れて説明）。
- 川浦 康至 編著 「現代のエスプリ306号 メディアコミュニケーション」 至文堂 1,100円（電話、パソコン通信、対人コミュニケーション：多様な研究成果がもりだくさん）。
- *川浦康至 他共著 「電子ネットワーキングの社会心理」 3月発行予定 誠信書房 価格未定（パソコン通信、電子コミュニティ、人間関係：類書がない）。
- 北原歌子 著 「サイコドラマ入門」 今秋出版予定 川島書店（よろしくおねがい申し上げます）。
- 城戸崎雅崇 著 「新人指導の考え方と進め方」 日本経営者団体連盟広報部 1,300円（例外的な〈困った部下〉の扱いに悩んだのは過去：現在の管理者は標準的な〈若い世代〉の扱いに悩む：実務体験を背景に若者とのつきあい方を読みやすく説く）。
- 黒川正流 監訳 来嶋・神山・小島・坂田・村中 共訳 Sundstrom, E & Sundstrom, M. 著 「仕事の場の心理学」 西村書店 4,635円（オフィスと工場環境デザインと行動科学：対人関係・自己同一性・コミュニケーション・プライバシー・小集団と環境）
- *黒川正流・橋口捷久・坂田桐子 共訳 Brown, R. 著 「グループ・プロセス——集団内行動と集団間行動」 4月刊行予定 北大路書房 定価未定（グループ・ダイナミックスの展開、集団の実在、集団の構造的側面、個人対集団、集団間葛藤、同一化）
- 榎 博文 編著 「異文化ビジネス戦略——普及学の視点——」(近々出版予定) 同文館 定価未定（2,000円前後）〈著割多分有〉
- 坂元 章 著 「認知的複雑性と社会的知覚システムの進展」 風間書房 12,000円（認知的複雑性、社会的認知、認知スタイル、社会的発達）
- 正田 亘 著 「産業・組織心理学」 恒星社厚生閣 2,800円 〈本人著割〉（産業、組織、OA・ME化、作業環境、安全・衛生）。
- 白樫三四郎 著 「リーダーシップ／ヒューマン・リレーションズ」 明出版
- 杉江修治・三上和夫 編 「誰のための高校」 合同出版 1,500円（偏差値輪切りの高校入試制度改革への批判的資料提供をねらいとしたもので、私は中で、能力等質集団での学習の問題点を、実証的資料、実践的資料併せて検討してみました）。

自著をよろしく！ 会員が出した本②

- 高木 修・被服行動研究会 訳 カイザー著 「被服社会心理学」 9月出版予定 北大路書房 価格未定（被服行動を通じて社会心理学の諸理論を説明。社会心理学の諸理論から被服行動を説明）
- 西島衛治 著 「身障者を配慮した建築設計チェックリストと実施例」(増補・改訂版) 4月発行予定 編集 理工図書 3,500円予価 〈著割〉(障害者・バリアフリー・建築設計：高齢社会の都市公共施設や住宅の計画の資料になります)。
- 野渡正博 他共著 「工程管理ハンドブック」 日刊工業新聞社 20,000円
- 長谷川浩一 著 「心像の鮮明性尺度の作成に関する研究」 風間書房 10,300円 〈著割〉(あまりGDとは結びつかないのかもしれませんが……：学位論文です)。
- 原岡一馬・若林 満 編 「組織コミュニケーション」 福村出版 2月刊行予定（組織社会化、共生のコミュニケーション、組織革新、リーダーシップ開発、情報技術と組織の人間関係。原岡先生のご退官を記念する意味で）。
- *原岡一馬 著 「人間の社会的形成と変容」 ナカニシヤ出版（名古屋大学退官記念出版）
- 林 英夫 他3名共著 「体系マーケティングリサーチ事典」 同友館 3,200円 〈著割〉(マーケティング・リサーチ、リサーチの技術革新、リサーチの倫理、マーケティング情報システム、消費者行動)
- 古畑和孝 著 「道——父・母・私——」 学芸図書（非売品）(還暦・東大退官記念の小著)。
- *古畑和孝 他共著 「道徳性の診断と指導」 東京心理 1,200円（約24,000名のデータの解析に基づく小著）。
- *古畑和孝・平井 久 監訳 「ジンバルドー他：心理学への招待」(ビデオ教材全26巻完結) 丸善 各巻30,000円（社会心理学を含む心理学の動向の展望）。
- *古畑和孝 著 「好きと嫌いの人間関係」 4月刊行予定 有斐閣 定価未定（好意・魅力・愛の社会心理学にかかわる小著）。
- *その他数点進行中。
- 横田澄司 著 「大都市生活者のマーケティング」 白桃書房（題目は出版社が勝手につけましたが、ライフスタイルに関する著書です）。
- *横田澄司 著 「大都市生活者の消費構造」 同文館（1993年4月には勤務校からの出版助成金が得られます。社会規範からのアプローチです。不安状況、生活事件、サービス関連費など）。
- 三井宏隆 著 「データのとり方・まとめ方」 垣内出版 1,957円
- *三井宏隆 著 「実験・調査の考え方」 小林出版 1,500円（研究法のテキスト、参考書に）。
- 宮本正一 著 「人前での心理学」 ナカニシヤ出版 6,200円 〈著割〉(社会的促進、自己呈示、フィールド研究、社会的抑制)

各地各様・研究会へどうぞ

☆ご案内やらレポートやら☆

★第7回関西フォーラム（日本GD学会関西地区研究会）について

【京都大学の杉万俊夫理事の口添えで同大学院の永田氏にフォーラムをレポートしてもらいました】

去る12月11日、Joseph Britton氏をゲストスピーカーに迎えて、第7回関西フォーラムが開催された。Britton氏は、プリンストン大学で心理学と物理学を専攻、人間のphysical movementが、自己および他者に与える影響について関心を持ち、現在は、physical movementについてのコンサルテーションやセラピーをビジネスにするという異色のキャリアの持ち主である。

Britton氏の講演要旨は次のとおり。

人間のphysical movementは、その人の内面の意識・感情と密接な関係にあり、意識・感情がphysical movementとして外在化するとともに、physical movementを意図的にコントロールすることによって、意識・感情を変化させることも可能である。したがって、他者に対するコミュニケーションやプレゼンテーションを効果的にするためにも、また、自らの意識や感情を意図的に変容させる（例えば、depressionからの脱却）ためにも、physical movementが重要な鍵となる。

また、physical movementの具体的形態を規定する要因には、集団（社会）共有の要因と個人に特徴的な要因がある。2時間にわたる講演は、Britton氏による実演や参加者の実習がふんだんに盛り込まれ、非常に面白く、活気あるものだった。一例を挙げれば、南米・アフリカ・アメリカ・日本（のサラリーマン）

に典型的な歩き方の披露や、参加者同士が互いの歩行動作をまねた後の気分の報告、等。最後に、さまざまな国に特徴的なphysical movementをよく実感できるものとして、数種類のダンスを、氏のインストラクションのもと、BGMに合わせて、参加者全員で踊ったのだが、これがかかなかサマにならず、図らずも皆で一致して「日本人らしさ」を体現しているように見受けられ、思わず笑いがこみあげてきた。

京都大学人間・環境学研究科
永田素彦

★名古屋社会心理学研究会

【原岡理事から、七月以降の活動記録を報告していただきました】

会場：名古屋大学教育学部

責任者：原岡一馬

○第3回・7月4日（発表者：金井篤子（名古屋大学）「働く女性のキャリア・ストレス——パス解析による転職・退職の規定要因の分析——」

○第4回・8月29日（発表者：安藤清志（東京女子大学）「自己呈示の社会心理学」の研究動向 他」

○第5回・9月26日（「合評会31巻3号」発表者：中村和彦（名古屋大学）

「神山・藤原論文」Effects of Need for Cognition and Distraction on Issue-relevant Elaboration and Attitude Change.

発表者：森久美子（名古屋大学）「釘原論文」Collective Behavior in an Emergency: Escaping from Human Maze.

○第6回・12月12日（発表者：唐沢穰（愛知学院大学）「ステレオタイプの信念

の「直接的」・「間接的」反証について」
○第7回・2月27日（発表者：原岡一馬（名古屋大学）「社会心理学研究の在り方」

★対人行動研究会の紹介

【若手研究者のアクティブな活動で知られる「対人研」。GD学会大会に隣接して研究大会が開かれてきたようです。最近では自称「若手の入会希望者も多い」とか。活動状況を安藤理事に紹介してもらいました。】

対人行動研究会（略して対人研）は、「対人行動」に関心をもつ若手研究者の知的交流の場として十数年前に内藤哲雄氏・蘭千壽氏らを中心に発足しました。以来、年々会員の数が増加し、現在は約百四十名にのぼっています。

対人研ではこれまでに、地域や出身大学をこえた交流を促進するためにさまざまな新しい活動を企画してきました。会員の努力に支えられたこれらの活動こそが、対人研を特徴づけるものと言つてよいでしょう。

「大会」は一九八〇年以来、毎年開催されています。合宿形式でいくつかのワークショップを行うことが多く、活発な議論が展開されます。

機関誌「対人行動学研究」は現在までほぼ毎年発行されています。内容の構成がかなりの部分編集担当者にまかされており、原著論文だけでなく、データ解析を中心とした資料論文をはじめ、研究に直接的、間接的に役立つ情報が掲載されます（「心理学を教育する」「ゼミ・研究会紹介」など）。

「重要文献要約集」は欧米の雑誌に掲載される最新の研究を会員が翻訳し、コメントを加えた上でまとめた論文集で、現在、第2号まで発行されています。

出版企画としては、これまでに対人研の会員が中心となって「対人行動の心理学」（誠信書房、一九八六）「対人行動学ガイドマップ」（ブレーン出版、一九九

〇）が出版されています。現在、「対人行動学シリーズ」（全8巻）が企画されており、来年から順次出版される予定です。

「パソコン通信」について。研究会では、地域が離れた会員相互のコミュニケーションを活発にするためにパソコン通信（NETTY Serve）による情報交換を推進しています。現在、会員の40%弱がIDをもっており、研究その他に役立てています。

各地域に大小さまざまな研究会がありそれぞれ独自の活動を行っています。ある意味で対人研は、そうした研究会の活動を従来の学会とは異なるやり方で結ぶネットワークの機能を果たしつつあると思っています。また、「対人行動学」という名称になっているからといって、会員が集団の問題に関心がないというわけでももちろんありません。実際、過去の大会では「集団」研究再考」「実験・教育・産業場面での個別集団研究の問題」などがワークショップのテーマとして取り上げられています。

事務局は村田光二氏（現在東京学芸大学、一九九三年四月一日より一橋大学）が担当していますので、対人研の活動に関心のある方は是非ご連絡ください。（文責：東京女子大学 安藤清志）

【つぎの二つの研究会は古畑和孝理事のご紹介です。】

◆道徳性評価研究会

一九八四年以来続行。一回約四時間。現職小学校教師が共同研究者。GD学会員は明田芳久・岡本浩一・岡隆。

◆価値観研究会

一九八八年以来。約一年間休会するも一九九三年二月再開予定。GD学会員は明田芳久・渡辺淳・亀田達也・岡隆・工藤恵理子・沼崎誠・坂元章

◆SPCC研究会

【高木修氏からユニークな研究会への参加呼掛けです】

被服の社会心理学を研究する会。毎月一回（通常土曜日、関西大学社会学部に於て開催）今月で五十一回。目下カイザーの本の翻訳を行ない、共同研究を計画。参加者は若手中堅の社会心理学者と家政学、特に被服構成学の専門家合計二十名ほどで行なっている。興味・関心のある人の参加を募集中！

◆第三十七回日本社会心理学会公開シンポジウム「政治はなれの社会心理学」

【早川昌範氏からもシンポジウムへのお誘いが届いています】

日時：一九九三年六月五日（土）午後一時三十分～午後四時三十分

会場：愛知学院大学・学院会館（名古屋駅から地下鉄東山線で終点藤ヶ丘駅25分、そこから愛知学院大学行バスで8分）

話題提供者：平野 浩（愛知県立大学）・田中愛治（東洋英和女学院大学）・田中國夫（関西学院大学、指定討論者）

：鮑戸 弘（東京大学）・木下富雄（京都大学）、司会：早川昌範（愛知学院大学）。問い合わせ先：〒470-01愛知県愛知郡日進町岩崎、愛知学院大学文学部心理学科 日本社会心理学会公開シンポジウム準備委員会事務局（準備委員代表 早川昌範）電話05617-3-1111 FAX05617-3-8179

◆街の色研究会・京都

【島久洋さんらしさがにじみでるPRです。いずれ編集部から広告料を請求することにしませう】

最近、「街の色研究会・京都」というボランティア・グループに入って遊んでいます。代表は秋田宗平京都工機大教授です。その前身の「京都の街の色」シンポジウム組織委員会と公共の色彩を考える会とが共催したシンポジウムの報告書が出ました。報告書の配布金額は一万二

千円で、売れないので、事務局がPRしてくれと言っています。以下PRをします。『京都の街の色』シンポジウム総会報告書：発行「京都の街の色」シンポジウム組織委員会 事務局 〒605 京都市東山区本町15-784 三竹園美術文庫内 TEL.075-561-6241 事務局長 村上はるみ。これは、京都発の「街の色」研究のバイブルです。

【本紙の編集がもたついている間に、お知らせいただいたつぎのような研究会が終了してしまいました。次回は是非】

☆杉江修治氏より

第二十七回全国バス学習研究大会

「個を生かす指導をめざして——生き生きと学ぶバス学習——」

日時：2月10日：尼崎市立上坂部小学校 ☆木下富雄理事より

日本リスク研究学会第5回研究発表会 シンポジウム「都市のリスク」他

日時：92年11月27、28日：京大会館

スペイン・マドリッドで国際応心

近く渡航旅費支給の公募！

【一九九〇年の京都での国際応心を主催された三隅会長から耳寄りな情報】

第二十三回国際応心心理学大会は来年（一九九四年）七月十七日から二十二日までスペイン（マドリッド）で開催される。

参加希望者の諸手続き期限は、①シンポジウムの題目提出・九三年一月末日（今からでも間に合う可能性ありとのこと）

②シンポジウム題目の承認・九三年四月末日③シンポジウム・プログラム決定・九月末日④個人発表ポスター提出・十月末日⑤同上の承認・九四年三月末日。

なお、第二十二回IAAP京都大会の際に設立された基金による渡航旅費公募が日本心理学会から近々行われる予定。応募資格は学会発表予定者に限られるが、希望者は心理学研究その他の情報資料に注意しておきたいとのこと。

●実社心研三十三巻一号掲載決定論文

【平成五年度一般号にはつぎの七論文】

△久保真人「行動特性からみた親密な関係の類型化」△奥田秀宇「態度の重要性および類似性と対人魅力」△神信人・関谷直保子・篠塚寛美「ネットワーク型囚人のジレンマの実験的研究」△伊藤忠弘「セルフ・ハンディキャッピングの状況的規定因に関する研究」△佐藤静一「学級『集団』と生徒『個人』次元の担任教師のPM式指導類型が生徒の学校モラルに及ぼす交互作用効果」△坪田雄二「原因帰属が社会的比較によって生じる嫉妬感情に与える影響」（以上は原著論文）△深田博己・周玉慧「説得に及ぼす予告の評価的性質の効果」（資料論文）

この他の邦文論文は、受理済み原著一資料一その他、修正中原著五、再投稿要求原著一、不採択展望一、審査中原著四資料一の計十四編である。英文論文は三十二巻三号が本紙と同じ頃に会員に送付されるはずであり、他に原著二資料一の三編が修正中または審査中となっている。

●『教育集団力学』論文募集

実験社会心理学研究三十三巻二号の特集テーマは「教育集団力学」。テーマについての問い合わせや原稿送付先となる副編集委員長の熊本大学教育学部佐藤静一氏は、学校・学級、教師のリーダーシップを中心に、家庭、地域社会など教育集団の「力学」に関する実証研究やアクション・リサーチなどの論文投稿を呼びかけている。締切は五月三十一日。

『学会のあり方について』

常任理事会がプロジェクト委員会に検討を委嘱

改選後第一回(平成四年度第五回)の常任理事会は十二月五日に行なわれ、定例審議事項の他に学会運営のあり方について討議した。この問題については、理事や一般会員に意見を求めるだけでなく、いわゆる「若手」研究者で編成するプロジェクト委員会に検討を委嘱することとした。委員は大坊郁夫・安藤清志・杉万俊夫・峰屋良彦・黒川正流・佐藤静一の各氏で、まとめ役に中村陽吉常任理事が当たる。

★まず役員選挙制度と機関誌編集体制

プロジェクト委から具体的検討へ
学会のあり方についての検討を常任理事から委嘱されたプロジェクト委員会は一月三十一日(日)に羽田空港近くで初会合をもち、意見の交換を行った。

学会運営については、学会事務局が「集団力学研究所」に同居して専務や経費を一元的に依存している現状から、将来の会長役員の交代までも視野にいれた展望、機関誌発行業務の分担、学会専務センターの活用と学会費値上げの必然性などの問題が確認された。

機関誌編集については投稿論文の審査体制と編集責任者の責任のあり方、英文誌の国際的編集体制が取り上げられた。

理事の選挙については地域別選出方式の再考と全国区の提案、理事・常任理事の多選禁止や年齢別理事定員、理事定年制、副会長の直接選挙制などが話題にのぼった。

その他、学会大会のプログラムの組み方などGD学会の活性化に向けての諸問題がとりあげられ、広く会員諸氏の意見を求める必要があると認識が一致した。

この会合の様子は三月六日の常任理事会に中村常任理事から報告され、まず役員

の見直し案の作成と、機関誌編集組織と理事会の関係についての検討に着手することになった。役員選出規定の見直し案の作成は黒川、安藤(清)、大坊、杉万の各理事がとりまとめる。理事会と機関誌編集委員会との関係については狩野、鈴木、原岡の各理事が編集委員会の体制を含めた具体的検討に入ることとなった。

これらの問題についての会員の意見は前記各理事または本紙へのOPINIONへの投稿でお寄せください。

◆心理学諸学会間連絡委員の交代

会報「さいころじすと」を発行している心理学諸学会連絡委員会は、本年一月現在で加盟数二十一学会となった。

本学会の委員は押見輝男氏と山口勲氏であるが、十二月五日の常任理事会で押見氏の交代の申し出を了承し、次年度から中村陽吉常任理事に委員を委嘱することとした。山口氏には引続きお願いする。

◆名誉会員に田中熊次郎氏

十月三日の四十一回総会で、本学会名誉会員に創価大学名誉教授・田中熊次郎氏が推挙された。名誉会員は牛島義友氏に続いて二人目。

◎GD学会員の紀要等発表論文題目

○安藤延男「福岡県立大学設置の経緯」
1993 福岡県立大学研究紀要創刊号予定
○三井宏隆「Spectator violence」としてのフーリガニズム」1992 哲学(慶応義塾大学・三田哲学会) 93集 279-307。
○西島衛治「老人保険施設の建築計画に関する研究」「シルバーハウジングプロジェクト事業計画の方針に関する調査」
「シルバーハウジングプロジェクト事業におけるISAのサービスに関する調査」
1992 熊本工業大学研究報告17巻1号

○野渡正博・他「産業界におけるグループ・ダイナミクス」1992 日本経営工業会誌43(4) 241-252。「作業力指向資質を持つ望ましい管理監督者像の認識に関する日米比較」1992 産業・組織心理学研究6(1) 35-47。(共著)「インダストリアル・チームワーク・ダイナミクス」1992 IE Review, 33(5) 53-59, 178。
○Onodera, T. and Miura, M. 1992 Status and Physical Attractiveness were exchangeable? Memories of staff members of Tokai Women's Junior College, Vol. 18, 115-120

○坂田桐子・黒川正流「性別顕著性が自己定義および対人評定に及ぼす効果に関する研究」1992 広島大学総合科学部紀要(理系編) 18巻73-82。
○島 久洋「戦後ブラジル移民の宗教意識」1992 桃山学院大学・キリスト教論集 28号43-88。「優れた診療医の資質」
1992 桃山学院大学・人間科学 3号、11-127。「優れた診療医の特性」1992 桃山学院大学・国際文化論集6号 3-15。
○白樫三四郎(書評) 1992 Managing in the new team environment: skills, tools and methods. L. Hirschon Reviewed by S. Shirakashi. Journal of Organizational Behavior, 13(6), 634-636。

○高木 修「米国における向社会的行動の分類学的研究(2)向社会的行動についての規範的態度」1992 関西大学社会学部紀要23巻2号 75-106。
○田中堅一郎「報酬分配に関する社会心理学的研究におけるこれまでの成果と今後に残された問題」1992 東北女子大学・東北女子短期大学紀要31巻 11-22。
○田中宏一「ストレスとソーシャルサポート研究の現状」1992 日本労働研究雑誌 No. 394 45-55。

○土田昭二「態度形成過程における認知作業量が態度の認知構造におよぼす効果」1992 明治大学教養論集 249号、1-26。

▼四十回大会発表取り消し

つぎの発表題目は発表者欠席のため大会公式記録から削除されます。
パネル発表・篠原しのぶ「青少年の男女平等意識に関する調査研究Ⅱ」(論文集 pp. 179-180.)

編集後記

*大学の引越なんて何十年に一度あるかないかの大事業を、幸か不幸か経験することになってしまったこの数カ月。移転の最中でも容赦なく降ったり湧いたりする仕事。やっと新しい仕事場に落ち着いた今、たまった雑務や研究が一気になだれ落ちてきつあります。でも、大学関係施設以外は周囲に何もない環境、新しくきれいな仕事場、とくれば、もうひたすら仕事するしかない! さぞかし能率も上がるだろう……と甘い期待を持つこの頃です。(桐)

*通巻第二号の編集がやっと終了、というより何とか「やつけた」という感じでした。遅くなってスマミセン(また言ってます!)。今回は取材用往復葉書を国内在住会員七百名に発送してご協力をいただいた。びっしり記入された復信三十五通と封書・FAX五通は果して多いのでしょうか少ないのでしょうか。
*コピー、ワープロ、校正……文部教官桐殿のお仕事でした。

*名古屋大会の特別企画「学会の足跡を振り返る」を開始するやいなや、かなりの若い会員が会場からさっと姿を消したことに小さな衝撃を受けたのはやはり年齢のなせるわざでしょうか。つられて自称「若手」が退場する様は微笑ましくもあり……先輩の努力の歴史と伝統がまさに縁の下の土台となって、活力ある学会活動が維持されるのでしょうか。(これじゃまるで名誉会長談話デスネ。)(黒)

*四面記載の通り、会報編集部の住所と電話番号がかわりました。当面のFAX番号は0824-24-0759黒川宛に願います。